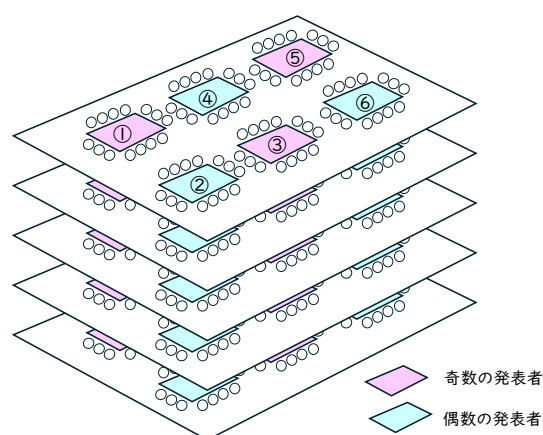


第70回学術大会における「一般演題（オンライン発表）」について

本大会におけるオンライン発表は、従来の対面発表（口演およびポスター発表）の両方の良さを取り入れた発表をオンラインで実現しようとしたものです。これまでにあまり経験したことがない形式ですので、若干の説明をいたします。

一般演題（オンライン発表）は11月16日のプログラムの中で実施します。

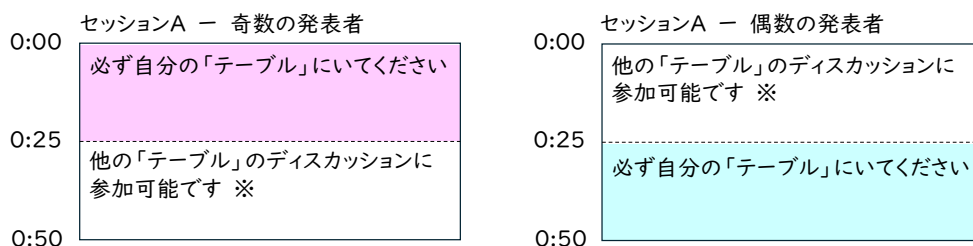
このオンライン発表のための仕組みとしてREMOというプラットフォームを用います。このプラットフォームには複数の仮想のフロアがあり、各フロアに複数の「テーブル」があります。各セッション（50分）のなかで、発表者ごとに1個の「テーブル」が指定されます。この「テーブル」には、発表者を含めて10名（予定）の参加者が入ることができます。「テーブル」の



中にいる参加者同士は発表者が提示する画面を共有しながら、相互に対話が可能です。つまり発表者の発表を聞きながら、質問等が可能です。「テーブル」の外と中では相互の対話できない構造になっています。

従来のポスター発表のように、大会期間中に掲示してあるポスターをいつでも見られるように、各発表の概要を従来のポスター形式にまとめたファイルを大会前に提出していただき、大会サイト上で大会期間中に参加登録をした方ならだれでも閲覧可能な状態にするようにします。発表者は各「テーブル」でこれを用いて発表することもできます。加えて画面共有が可能な材料であれば、スライドショーや動画を使って発表することも可能です。

発表者が指定された「テーブル」にいるべき時間は、各セッションの前半または後半のいずれかがあらかじめ指定されます。その時間帯以外は、発表者は持ち場にいることも、会場内の他の発表のディスカッションに参加することも可能です。参加者はどのフロアのどの「テーブル」へも自由に移動可能です。つまり対面会場を見て回ることがオンラインで再現されます。



※ 50分間全ての時間、自分の「テーブル」にいることも可能です